



第54号 発行日 平成24年8月

日頃、地域医療連携にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

先月、秋田県農村医学会第116回学術大会が、開催されました。ワークショップでは、「秋田県地域医療における厚生連の役割」をテーマに、9病院と本所の担当者が、地域との関わりや地域医療における独自の取り組みについて発表しました。

今回は、当院の発表内容を一部抜粋し、報告いたします。

地域医療連携室 大沢 知佳

## 秋田県農村医学会 第116回学術大会の発表報告

日時：平成24年7月21日（土） 9:40～11:10

場所：秋田県JAビル 第一会場

座長：平鹿総合病院 院長 平山 克

### 共に診る・共に支える地域医療 — 共同利用病床の運用を通して —

平鹿総合病院 地域医療連携室 高山 国子

2008年の地域医療計画によって、「医療の機能分化・連携による切れ目のない医療を実現するための方向性が示された。当院では、その要である病診連携を促進するための対策として、開放型共同利用病床を推進している。

現在、登録医は、55名。平成23年度運用実績は、稼働率92.7%であった。

在宅医療においては、疾患に関する問題だけでなく、介護や経済面や家族関係と言った複雑な問題を抱えていることが多く、回診時のかかりつけ医からの情報は、退院支援を行う上でも、重要な情報源となっている。

一つの事業を通して、有効な関係を作りだし、維持、発展させるためのマネジメントが当室の役割であると考えている。

2012年、診療報酬・介護報酬が同時に改定され、2025年に向けた、「医療保険・介護保険の連携・融合」に向けた取り組みが、本格的にスタートした。これまでの急性期の治療を中心とした診療形態では、高齢者の真の問題解決を図ることは困難であり、「地域と共に診る・共に支える医療」が必要と考えている。こうした共同利用病床の運用等を通して、在宅医療のメリット・デメリット、その限界を当院と地域医療機関の医師が、互いに検討し合いながら、患者さんを中心とした、多職種による連携方法を構築することが、当院の役割であると考えている。

